

赤城山南麓の縄文 Part1



隆起線文



細久保式



鶴ヶ島台式



諸磯b式



諸磯c式



焼町類型



諸磯c式



焼町類型



新巻類型

移りゆく縄文土器

群馬の縄文土器の移り変わり



- 1 徳丸仲田遺跡 (前橋市徳丸町)
- 2 下鶴谷遺跡 頭無遺跡 (前橋市鶴が谷町)
- 3 苗ヶ島大畑遺跡 (前橋市苗ヶ島町)
- 4 愛宕山遺跡 (前橋市富士見町横室)
- 5 広面遺跡 (前橋市富士見町小暮)
- 6 熊の穴Ⅱ遺跡 (前橋市神沢の森町)
- 7 上百駄山遺跡 (前橋市富士見町時沢)
- 8 市之関前田遺跡 (前橋市市之関町)
- 9 鼻毛石中山遺跡 (前橋市鼻毛石町)
- 10 五代遺跡群 (前橋市五代町)
- 11 旭久保遺跡群 (前橋市富士見町原之郷)
- 12 安通・洞遺跡 (前橋市粕川町室沢)
- 13 西新井遺跡 (前橋市上沖町)

編年図掲載土器の遺跡名

1徳丸仲田遺跡 (前橋市)、2・3下鶴谷遺跡 (太田市)、4城山遺跡 (渋川市)、5諏訪西遺跡 (渋川市)、6・8 中棚遺跡 (昭和村)、7 下鶴谷遺跡 (前橋市)、9 大林遺跡 (松井田町)、10坪井遺跡 (長野原町)、11三原田城遺跡 (渋川市)、12・32半田南原遺跡 (渋川市)、13下箱田山遺跡 (渋川市)、14・16・22-24糸井宮前遺跡 (昭和村)、15分郷八崎遺跡 (渋川市)、17川白田遺跡 (前橋市)、18清水山遺跡 (みどり市)、19・26桶越上大屋遺跡群 (前橋市)、20・21・23・29中野谷松原遺跡 (安中市)、27・30・31両蛇井嶋光寺遺跡 (富岡市)、28白倉下原遺跡 (甘楽町)、33-35

房谷戸遺跡 (渋川市)、36-38道訓前遺跡 (渋川市)、39荒砥前原遺跡 (前橋市)、40-43波志江中野面遺跡 (伊勢崎市)、44 小神明遺跡 (前橋市)、45熊野谷遺跡 (前橋市)、46-48荒砥二之坪遺跡 (前橋市)、49・50・54-56曲沢遺跡 (伊勢崎市)、51-53矢太神沼遺跡 (太田市)、57-60・62吹屋中原遺跡 (渋川市)、61・6深沢遺跡 (みなかみ町)、64大道遺跡 (前橋市)、65下新井遺跡 (榛東村)、66大原道東遺跡 (館林市)、67・68谷地遺跡 (藤岡市)、69・71・73・75・76千網谷戸遺跡 (桐生市)、70新治村役場遺跡 (新治村)、72-74保美瀬山遺跡 (藤岡市) = 群馬県教育委員会ほか 2005 「時代が変わる道具も変わる」をもとに左右反転して使用

縄文時代の幕開け

もっとも寒かった二万年前を境に氷河期が終わりを迎え、一万五千年前から徐々に暖かくなり、一万年前には現在とほぼ同じ気候になりました。旧石器時代とは環境が一変し、日本列島は広葉樹で覆われ、木の実がたわわに稔り、動物が棲む豊かな森が広がりました。それまで獲物を追って移動生活を送っていた旧石器時代から、採集を主とした定住生活が始まりました。定住することで生活道具は格段に増えました。土器もその一つです。土器の登場により、食べられるものの範囲が増えました。食物を煮て柔らかくし、効率的に栄養を摂取することが可能となっただけでなく、殺菌効果もあったようです。

縄文土器の形や描かれた文様から縄文時代は草創期、早期、前期、中期、後期、晩期と分けられています。各時代の縄文土器の文様を鑑賞することも魅力の一つです。それでは赤城山南麓に花開いた縄文土器を観ていきましょう。縄文時代の幕開けです。



土器編年図

時期	14000年前	10000年前	7000年前	5500年前	4500年前	3400年前	2300年前
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	
型式	(無文) (隆起文) (微隆起文) (多細文) (表裏縄文) (爪形文・押捺文) (細隆起線文) (隆起線文)	井夏稲穂平三田子野鶴茅* 草島荷荷坂戸戸母島ヶ山山 台原下上口島上下層層 木輪台根II	下吉井 花横下層 関山 黒浜 諸磯a 諸磯c・興津 諸磯b・浮島 十三菩提	五領ヶ台 清水台・阿玉台I 勝坂I・阿玉台II 勝坂II・阿玉台III 勝坂III・阿玉台IV 加曾利E1 加曾利E2 加曾利E3 加曾利E4 *	堀之内1古 堀之内1新 堀之内2 加曾利B1 加曾利B2 加曾利B3 曾谷 安行1 安行2	安行3a 安行3b 安行3c 安行3d 千網 ◎ 荒海	
土器							

三省堂「日本考古学事典」2003より。() は出土遺跡ないし土器文様。◎は左の型式の継続を示す。*は型式が想定される。



縄文時代草創期 ～土器の誕生～



1 徳丸仲田遺跡（隆起線文土器） 推定器高 29cm

赤城山南麓の縄文時代の幕開けを告げる土器です。土器の表面には粘土紐をめぐらせ、丸い底が特徴です。土器の上位にめぐらせた粘土紐は、編み籠にかけられた口紐を表現していると考えている研究者もいます。土器はいろいろな容器をモデルにしていたと考えることもできます。



縄文時代早期 ～土器文様の多様化へ～



2 頭無遺跡（細久保式土器） 器高 19.5cm

草創期に比べ出土数が増加します。文様を付ける方法がふえて、いろいろな種類の文様が付けられますが、底が尖っている事は共通しています。縄文土器の文様は、その名のとおり縄目の模様が土器に付けられますが、縄目だけでなく、格子目や山形などの模様を彫刻した円い棒を回転させながら押し付けることで、文様を描き出す土器もあります。



3 頭無遺跡（田戸上層式土器） 器高 35cm



4 頭無遺跡（常世式土器） 器高 34cm



5 下鶴谷遺跡（鵜ヶ島台式土器） 器高 38cm



6 苗ヶ島大畑遺跡（鵜ヶ島台式土器） 器高 46cm

下鶴谷遺跡と苗ヶ島大畑遺跡から見つかった土器は貝殻の表面の凹凸を土器にこすり付けた後、細い粘土紐で幾何学的な文様を描きだしています。この似通った土器から、縄文土器を作る際には模様のきまりがあったようです。

ぜん き じんこう ぞう か あたら かたち ど き
前期 ～人口の増加と新しい形の土器～

このころから温暖化が進み、森はより一層豊かになり、縄文人に森の恵みを与えたようです。人口は増加し、土器の出土数も増えます。また、これまでは深鉢と呼ばれる形の土器が作られますが、このころから浅鉢と呼ばれる土器も出現します。浅鉢は食物を盛りつけるようになったため登場した土器ともいえます。

赤城山南麓では粕川地区や大胡地区、富士見地区などで数多くの遺跡が調査されています。



7 愛宕山遺跡（諸磯b式土器） 器高 45cm



8 愛宕山遺跡（諸磯b式土器） 現存器高 26.5cm



9 広面遺跡（諸磯c式土器） 現存器高 23.2cm



10 広面遺跡（諸磯c式土器） 現存器高 28.5cm



11 熊の穴II遺跡（諸磯a式土器） 器高 14cm



12 上百駄山遺跡（諸磯c式土器） 現存器高 19cm

縄文時代を通じてもっとも作られた形は深鉢と呼ばれる器形です。深鉢は煮炊きに適し、ドングリに代表される堅果類の灰汁^{けんかるい}ぬきだけでなく、硬い木の実も柔らかくすることができ、消化促進と効果的な栄養^{えいよう}摂^{せつ}取ももたらしめました。前期になると熊の穴II遺跡にみられるような浅鉢が登場します。浅鉢は食物の盛り付けに用いられたと考えられ、食生活に大きな変化があったことが考えられます。



13 市之関前田遺跡（前橋市市之関町）

縄文人の家は地面を掘りくぼめたもので、前期は長方形に掘りくぼめるのを基本とします。

屋根はカヤなどで吹かれ、カヤの上には土が乗せられていたと考えられています。土を乗せることで、延焼を食い止める防火の役割があったようです。

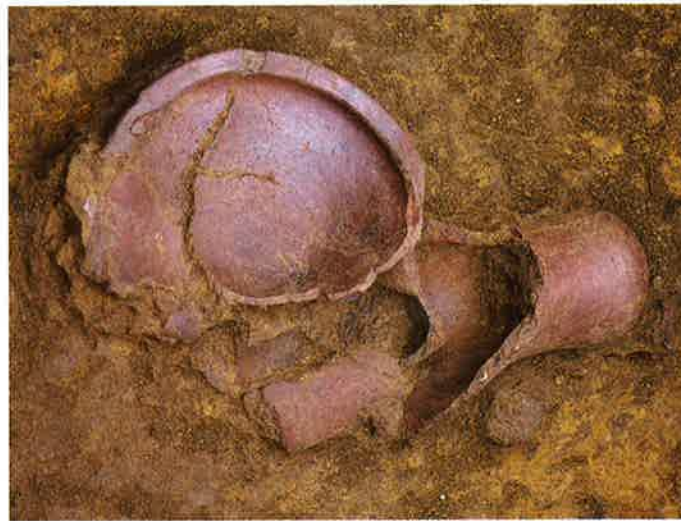


人口の増加はより一層進み、土器の出土数は飛躍的に増えるとともに、装飾の豊かな土器が作られます。機能性とは対極にある絢爛豪華な縄文土器は、縄文人の高い芸術性と豊かな精神文化の象徴です。

赤城山南麓では縄文時代の各時期をとおして最も遺跡数が多く、バリエーションが豊富で装飾性に富んだ土器が出土していることが知られています。



14 土坑遺物出土状態
この土坑からは、1個体の土器が出土した。



15 土坑遺物出土状態
下の写真の遺物はこの土坑から出土した。



16 鼻毛石中山遺跡 土坑出土遺物 左側の土器 現存器高 23.5cm



17 鼻毛石中山遺跡 土坑出土遺物 左側の土器 器高 12cm



18 鼻毛石中山遺跡 (阿玉台 I b 式) 器高 56.8cm



19 鼻毛石中山遺跡 (勝坂 I 式) 器高 31cm



20 鼻毛石中山遺跡 ヒスイ製大珠

ヒスイ製の大珠

一見すると鰹節のような形をしています。緑色に輝くヒスイは縄文人を魅了したようです。ヒスイの色は呪術的な魔力を持った宝石であり、ムラの有力者が身に付けていたものでしょう。鼻毛石中山遺跡から出土したヒスイ製大珠は長さ6.9cm重さ65.6gを測ります。今のところ、赤城山南麓ではこの遺跡以外に見つかっていません。

五代遺跡群の縄文集落

標高134mに位置する五代町では工業団地造成に伴う発掘調査が行われ、五代伊勢宮遺跡や五代木福遺跡、五代深掘遺跡などから、縄文時代前期、中期の住居跡や土坑などが確認されています。住居跡は環状に配置され、その内側には土坑が分布していることがわかりました。見つかった土器の大半は土坑から出土して、千葉県や長野県、東北地方の特徴的な文様を備えた土器が使用されたようです。これら遠い所の土器は、赤城山を目標に利根川などの河川を辿って、土器に描かれた文様情報が各地に住む縄文人を介してもたらされたのでしょうか。



21 五代深掘遺跡 出土遺物 集合写真



22 五代深掘遺跡 出土遺物

11ページの土坑から出土した土器の展開写真。4つの突起が付くことが分かります。



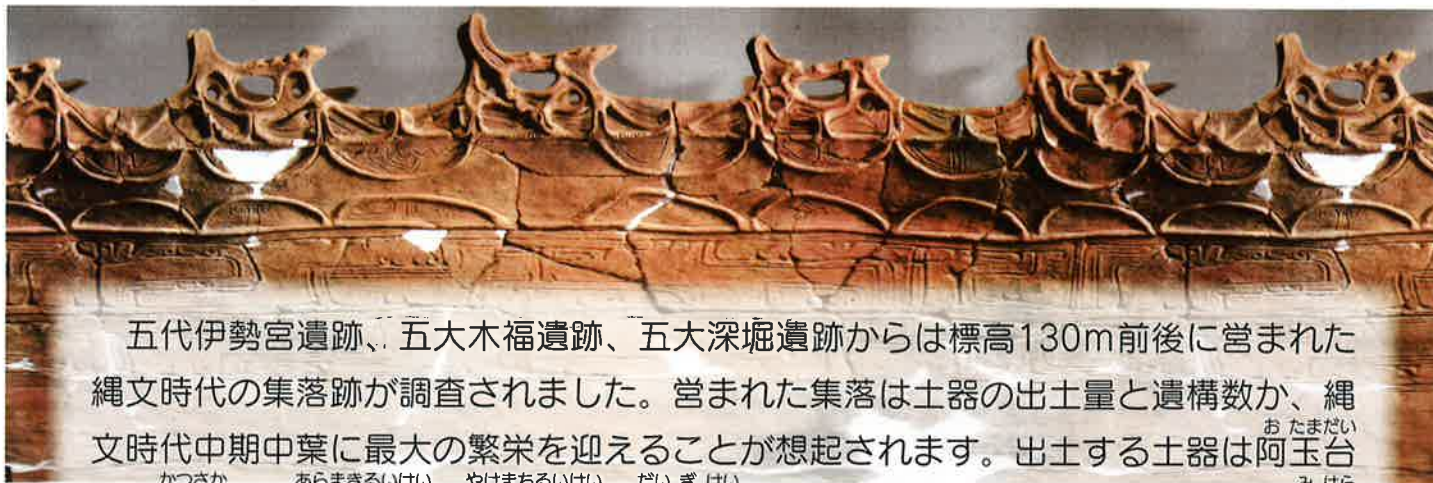
土坑は地面に掘られた穴で、墓や貯蔵用の施設であったようです。土坑からは土器が沢山出ることがあります。私たちにとって、土坑はまさに宝箱といえるでしょう。

23 五代深掘Ⅰ遺跡
土坑遺物出土状況



24 五代深掘Ⅰ遺跡

前期の長方形に掘りくぼめた家は、中期になると円形となります。



五代伊勢宮遺跡、五大木福遺跡、五大深堀遺跡からは標高130m前後に営まれた縄文時代の集落跡が調査されました。営まれた集落は土器の出土量と遺構数か、縄文時代中期中葉に最大の繁栄を迎えることが想起されます。出土する土器は阿玉台式や勝坂式、新巻類型、焼町類型、大木系など各地域で流行した土器のほか、三原田類型など赤城南麓で作られた土器もあり、各地域の土器が混在している状況が見て取れます。



25 五代伊勢宮遺跡 土坑出土遺物（大木系）器高 69.0cm



26 五代伊勢宮遺跡 住居出土遺物 器高 39.8cm



27 五代伊勢宮遺跡 土坑出土遺物 器高 40.5cm



28 五代伊勢宮遺跡（焼町類型）器高 33.0cm



29 五代伊勢宮遺跡 器高 13.2cm

旭久保遺跡群

標高145mの富士見町原之郷に所在する旭久保遺跡群からは縄文時代中期の住居跡や土坑が確認されました。五代遺跡群と同様に、各地域で特有の文様が描かれた土器が多数出土しました。



30 旭久保c遺跡 土坑出土土器



31 旭久保c遺跡（新巻類型） 器高 56.6cm



32 旭久保c遺跡（北陸系土器） 現存器高 12.8cm



新巻類型の展開写真



33 安通・洞遺跡出土 土製耳飾 左上の耳飾 直径 2.8cm

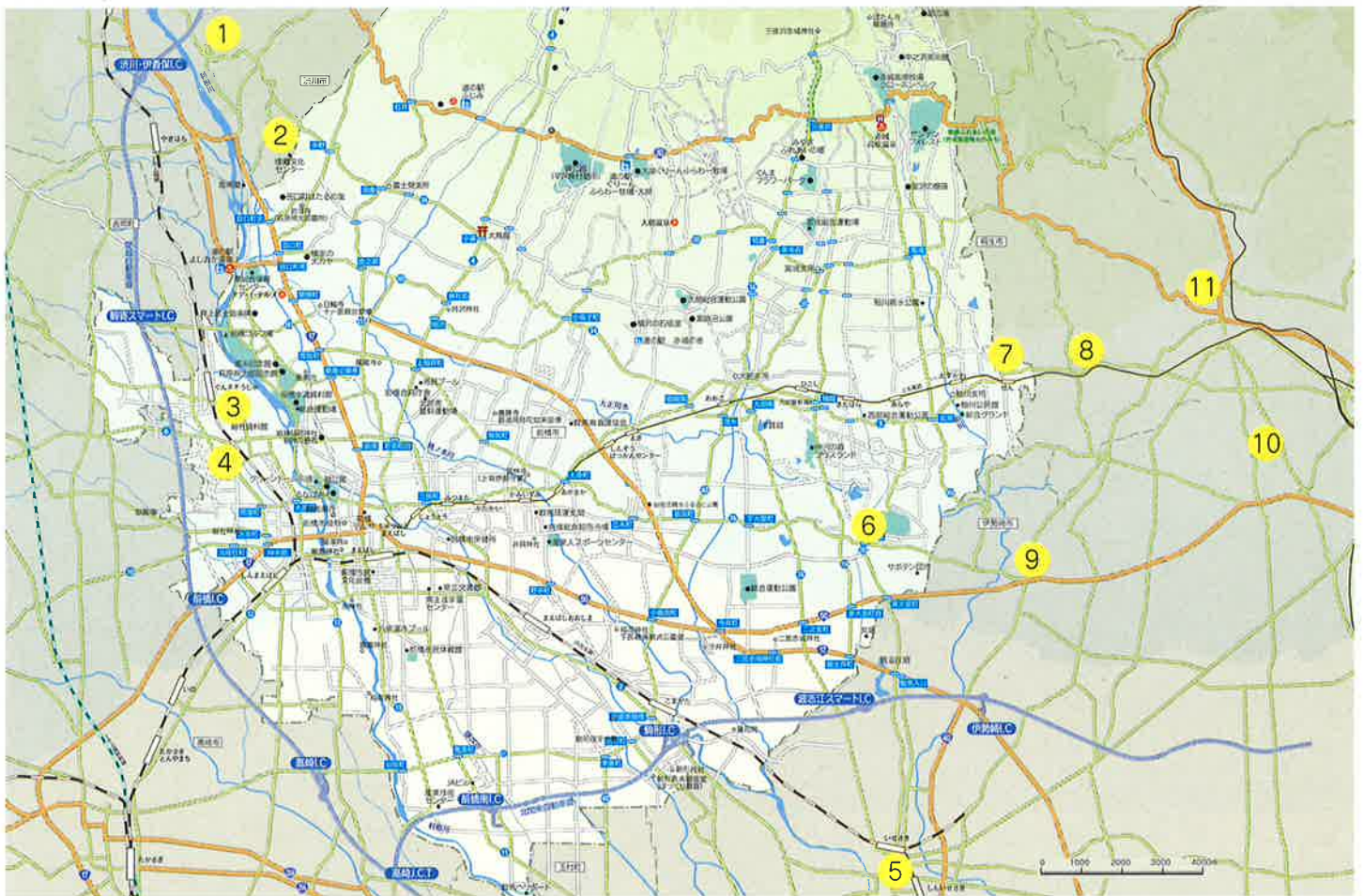


34 西新井遺跡

温暖な時期は過ぎ去り、やや寒冷化する時代になります。赤城山南麓からの出土数は極端に少なくなります。立体的な装飾から棒を押し引いた沈線を主体とした文様へと変化します。また、注口土器と呼ばれる土器も出現します。晩期には丁寧に磨かれた精製土器と呼ばれる土器と簡易に作られた粗製土器と呼ばれる二者に分かれます。出土数は圧倒的に粗製土器が多いのですが、わずかに出土する精製土器の精緻さに圧倒されます。

西新井遺跡は群馬大学附属中学校の南にあり縄文時代晩期の土器や石器がたくさん見つかりました。写真34の左上は遮光器土偶の一部で、東北地方を中心に作られたもので、群馬県内では非常に珍しいものです。

あかぎやまなんろく てんじしせつ あんない
赤城山南麓の展示施設のご案内



No	名 称	所在地	電 話	開館時間	休館日
1	渋川市北橋歴史資料館	377-0062 渋川市北橋町真壁246-1	0279-52-4094	9:00-17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
2	群馬県埋蔵文化財センター 発掘情報館	377-8555 渋川市北橋町下箱田784-2	0279-52-2513	9:00-17:00	土曜日、祝日の翌日、年末年始
3	前橋市総社資料館	371-0853 前橋市総社町総社1584-1	平成28年10月オープン予定		
4	前橋市文化財保護課総社ギャラリー	371-0853 前橋市総社町3-11-4	027-280-6511	9:00-17:00	土・日曜日、祝日、年末年始
5	相川考古館	372-0046 伊勢崎市三光町6-10	0270-25-0082	9:00-16:30	月曜日、年末年始
6	大室はにわ館	379-2104 前橋市西大室町2510	027-268-0439	9:00-16:00	4～11月…月～水、祝日開館 12～3月…月～金、祝日開館 年末年始
7	前橋市粕川歴史民俗資料館	371-0204 前橋市粕川町膳48-1	027-230-6388	10:00～16:00	月・火曜日（祝日は開館）、 年末年始
8	桐生市新里郷土資料館	376-0123 桐生市新里町武井693	0277-74-3881	9:00-17:00	月曜日、祝日、年末年始
9	赤堀歴史民俗資料館	379-2204 伊勢崎市西久保2-98	0270-63-0030	9:00-17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
10	岩宿博物館	379-2311 みどり市笠懸町阿佐美1790-1	0277-76-1701	9:30-17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
11	みどり市大間々博物館 コノドント館	376-0101 みどり市大間々町大間々1030	0277-73-4123	9:00-17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始

●写真提供

岩宿博物館＝1～6

安中市教育委員会(小川忠博氏撮影)＝7～10、12、30～32

●参考文献

上毛新聞社＝群馬の遺跡2 縄文時代

赤城山南麓の縄文 Part1

移りゆく縄文土器

平成28年2月29日発行

前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 前橋市総社町三丁目11-4

電話027-280-6511

Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp